

環境・安全レポート 2018

(レスポンシブル・ケア活動報告)



株式会社 **ADEKA**

三重工場

目次

1. はじめに	1 頁
2. 三重工場の概要	2 頁
3. 工場方針	3 頁
4. 環境マネジメントシステムの状況	4 頁
(1) 環境管理推進組織	4 頁
(2) 資格取得一覧	4 頁
5. 環境管理活動	5 頁
(1) 環境目標	5 頁
(2) 環境パフォーマンス	5 頁
(2.1) 環境負荷のインプットの低減	6 頁
(2.2) 環境負荷のアウトプットの低減	6・7 頁
(3) 環境会計	8 頁
(4) グリーン調達（事務用品）	8 頁
6. 安全衛生活動	9 頁
(1) 労働安全衛生目標	9 頁
(2) 安全衛生活動の取り組み	9 頁
(3) 保安活動	10 頁
7. 社会貢献活動	11 頁
(1) 地域とのコミュニケーション	11・12 頁
(2) 清掃活動	12 頁
アンケート	13 頁

1. はじめに

株式会社 ADEKA は 1917 年に電解法による苛性ソーダの製造を目的として設立し（当時の商号は「旭電化工業株式会社」、2017 年に創立 100 周年を迎えました。ADEKA グループは「新しい潮流の変化に鋭敏であり続けるアグレッシブな先進企業を目指す」、「世界とともに生きる」を経営理念として、「法令の遵守と社会倫理に則った公正・透明な企業活動」、「安全で高品質な商品・サービスの提供」、「環境の保全」、「社会からの信頼確保のための友好的かつ積極的なコミュニケーション・社会貢献活動」、「適正かつ公正な情報開示」、「働きやすい職場環境」、「反社会的勢力の排除」、「健全で持続的な発展と社会への還元」の 8 つを行動憲章としています。企業の社会的責任と経済発展とを両立させるという命題に対して ADEKA グループ一丸となって取り組んでいます。

三重工場は 1965 年の創業以来、プラスチック用樹脂添加剤や情報化学品材料などを製造してきましたが、従来から「環境保全是工場の発展・存続のための最重要インフラ」と位置づけ、同業他社に先駆け環境保全の管理を向上させてきました。これを徹底させるための国際基準である「ISO14001：環境マネジメントシステム」に基づいた改善活動を行っています。また、労働安全衛生も環境保全同様に重要との認識の下に、「OHSAS18001：労働安全衛生マネジメントシステム」に基づいた改善活動を行っています。今後とも、安全・安心でありかつ信頼を得られる工場であり続けられるよう、工場一体となって更なる改善・改革に取り組んでいく所存です。

本報告書は、2017 年度の三重工場の環境・安全に対する取り組みとその成果をまとめたものです。環境面では ① 公害・苦情の発生ゼロ、② 省エネルギーの推進、③ 廃棄物削減、④ グリーン調達の推進、⑤ ゼロエミッションの推進を目標として掲げ、取り組んでまいりました。安全面では、労働災害と通勤途上災害を 0 件とすること（ゼロ災の達成）を目標として掲げ、安全活動を展開してまいりました。また、発生が危惧される南海トラフ巨大地震に備えた BCP【事業継続計画】を作成し、そのレベルアップを図るとともに、緊急時の対処訓練を繰り返し行うことで、災害に強い工場作りに取り組んでいます。

2018 年度は 2017 年度の結果とその反省を踏まえ、更に継続的な改善・改革に取り組んでいます。

三重工場は、地域に根ざした企業として、行政や地域社会とのパートナーシップを更に深め、あらゆる機会を通じ地域の発展と環境保全に尽力し、「環境調和型企业」の実現に向けて努力をしていきます。

三重工場の環境保全・安全対策の諸活動を皆様にご理解いただくと共に、ご意見・ご指導を頂ければ幸いです。

2018 年 9 月

株式会社 

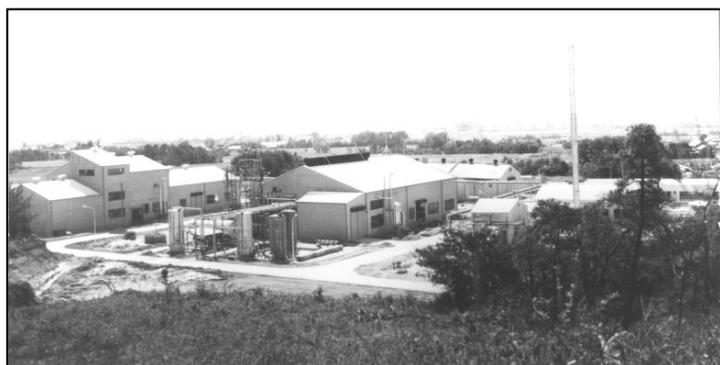
三重工場長 **高橋 伸**

2. 三重工場の概要

所在地	: 三重県員弁郡東員町山田 3707-1
工場開設	: 1965 年（昭和 40 年）10 月
敷地面積	: 144,465 m ² （43,711 坪） (2017 年度版の 143,227 m ² 43,402 坪を訂正)
常駐協力会社	: ADEKA 総合設備(株)、ADEKA 物流(株)、(株)ケイエス、三重加工サービス(株)
生産品目	: 塩化ビニル用安定剤、塩化ビニル・ゴム用可塑剤、ポリオレフィン用抗酸化剤・ 光安定剤などの樹脂添加剤、感熱紙用添加剤、光重合開始剤・エポキシ樹脂接着剤 などの情報化学品材料

工場沿革

年	沿革
1965	アデカ・アーガス化学(株)三重工場として操業開始
1970	塩ビ用無毒安定剤製造棟（N プラント）完成
1980	ポリオレフィン用添加剤製造棟（MP プラント）完成
1986	抗酸化剤製造棟（SP プラント）完成
1990	旭電化工業(株)と合併、ポリオレフィン添加剤大型製造棟（FM プラント）完成
1991	ポリエステル系可塑剤大型製造棟（PN プラント）完成
1993	ISO 9002（品質管理マネジメントシステム）の認証取得、 情報化学品製造棟（CL-I プラント）完成
1995	TPM 第 1 類受賞、FM プラント増能（FM-II プラント）完成
1996	ISO 14001（環境管理マネジメントシステム）の認証取得
1999	光記録材料製造棟（LMS プラント）完成
2000	OH & S 8800（労働安全衛生システム）適合（2001 年に OHSAS 18001 へ切替え）
2004	FM プラント増能（FM-III プラント）完成
2006	株式会社 ADEKA へ社名変更
2007	FPD 向け情報化学品製造棟（CL-II プラント）完成、CL-II 検査棟完成
2008	中実験棟（スケールアップ検討設備）完成
2009	添加剤ワンパック顆粒品製造棟（G-III プラント）完成
2013	BCP（事業継続計画）運用開始
2015	工場創業 50 周年
2017	高機能添加剤製造棟（SP-III プラント）完成
2018	FM プラント増能（FM-IV プラント）着工



1965 年 工場開設時の全景

3. 工場方針

三重工場では以下の環境方針、労働安全衛生方針を策定し、方針に従って活動しています。

三 重 工 場 環 境 方 針

<理念>

株式会社ADEKA 三重工場は、自然豊かな地域に立地している化学工場であることを認識し、地球環境保全への取り組みを工場運営の最重要課題のひとつと位置づけ、生物多様性と地球温暖化に配慮し、環境と調和した活動を推進し、地球環境にやさしい工場にします。

<方針>

○ 法規制の遵守と継続的改善

地球環境に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守すると共に、技術的・経済的に可能な範囲で地球環境保全の継続的改善を行います。

○ 地球環境負荷の低減

工場活動が地球環境に及ぼす影響を捉え、持続可能な目的・目標を設定し、廃棄物・エネルギー等の地球環境負荷の低減を行います。

○ 地球環境保全意識の高揚

環境教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が地球環境保全意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。

○ 生物多様性への取り組み

「生物多様性」の取り組みを推進し、保全を図ります。

○ 対外連携の促進

地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場にします。

2018年 4月 1日

株式会社ADEKA

三重工場長 高橋 伸

三 重 工 場 労 働 安 全 衛 生 方 針

<理念>

株式会社ADEKA 三重工場は、社会の一員として労働安全衛生が工場活動の基盤であることを認識し、安全で快適な職場作りを推進すると共に、社会に安心と信頼を与える工場作りを目指します。

<方針>

○ 法規制の遵守

労働安全衛生に関する法令・協定および当工場が同意した要求事項ならびに社内基準を遵守します。

○ 安全・健康の確保

取り扱い物質および設備の性質を把握し、取り扱い方法・設備の適正な管理を実施し、傷害及び疾病を予防します。適正な目標を定め、作業環境並びに労働安全衛生パフォーマンスの継続的改善に取り組みます。

○ 労働安全衛生意識の高揚

教育・啓蒙活動を通じて、従業員一人一人が労働安全衛生意識を向上させ、自主管理の徹底に取り組みます。労働安全衛生目標を設定し、目標を実行するための方向性を示します。

○ 対外連携の促進

地域社会の一員としての自覚を持ち、積極的な情報公開で意思疎通の充実を図り、社会に安心と信頼を与える工場作りに努めます。

2018年 4月 1日

株式会社ADEKA

三重工場長 高橋 伸

4. 環境マネジメントシステムの状況

(1) 環境管理推進組織

三重工場では、ISO 14001 の認証を取得し、環境管理に取り組んでいます。このシステムでは常駐協力会社を含む全ての部門及び階層の役割、責任、権限について明確に規定しており、この規定に基づき工場一丸となった環境保全活動を行っています。

(2) 資格取得者一覧

三重工場では、働く全ての人々に対して環境マネジメントシステムの周知と自覚の徹底を図っています。全員のレベル向上と環境の継続的改善を進めるため、全ての部署で計画に基づき教育訓練を実施しています。また、公的資格の取得にも努めています。主たる資格の取得者一覧を次に示しました。

表-1 主たる資格の取得者一覧表 2018年5月末現在

該当法規制	資格名称	必要人数	取得者数	対前年
大気汚染防止法	公害防止管理者 大気 1種、2種	2名	10名	+2
水質汚濁防止法	公害防止管理者 水質 1種、2種	2名	10名	±0
廃棄物処理法	産業廃棄物焼却施設技術管理士	1名	3名	±0
"	産業廃棄物中間処理施設技術管理士	1名	2名	±0
"	特別管理産業廃棄物管理責任者講習修了者	1名	6名	+1
労働安全衛生法	有機溶剤作業主任者技能講習修了者	27名	143名	+5
"	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習修了者	27名	133名	+11
"	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習修了者	29名	132名	+3
"	第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習修了者	13名	82名	+3
"	乾燥設備作業主任者技能講習修了者	9名	53名	+1
"	フォークリフト免許取得者	86名	164名	+2
"	クレーン運転業務特別教育修了者	21名	113名	+3
"	1級ボイラー技士	4名	14名	+1
"	2級ボイラー技士	4名	20名	+2
"	ボイラー整備士	0名	5名	-1
"	第1種 衛生管理者	1名	2名	+1
消防法	危険物取扱者甲種	0名	31名	-2
"	危険物取扱者乙種4類	28名	120名	+2
"	危険物取扱者乙種4類以外	7名	77名	+8
省エネ法	エネルギー管理士	1名	3名	±0
高圧ガス保安法	高圧ガス製造保安責任者（冷凍機械）	1名	2名	+1
"	高圧ガス製造保安責任者（乙種化学、丙種化学）	4名	17名	+3
計量法	計量証明事業試験	1名	4名	±0
電気事業法	第2種 電気主任技術者	1名	2名	+1
"	第3種 電気主任技術者	0名	1名	±0
"	高圧・特別高圧電気取扱業務特別教育	1名	1名	±0

青字：昨年比増、赤字：昨年比減

5. 環境管理活動（環境保全への取り組みと改善状況）

(1) 環境目標

2017年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

表-2 2017年度環境目標

目 標	結 果	評 価*2
① 公害・環境事故の発生 0件	0件	○
② 省エネルギーの推進		○
エネルギー原単位（対総生産量） 対前年1%改善	1.9%改善	○
CO ₂ 排出量の削減*1 原単位比で対前年1%改善	2.1%改善	○
③ ゼロエミッションの推進 最終埋め立て比率を0.1%未満	0.09%	○
④ グリーン調達の推進 80%	88.3%	○

*1 エネルギー起源 中間体含む総生産量において *2 評価 ○：目標達成 ×：目標未達

(2) 環境パフォーマンス

表-3 インプットとアウトプットのまとめ

INPUT	項目	単位	2017年度実績	対前年比 (%)
【原材料】 (主原料) 	原材料使用量*1	t	21,136	+4.4
【エネルギー】 	電力(原油換算量)	kℓ	3,947	+1.2
	蒸気(原油換算量)	kℓ	3,713	-2.9
	エネルギー原単位 (対総生産量*2)	kℓ/t	0.314	-1.9
【水】 	地下水汲み上げ量	千t	2,331	+2.5
OUTPUT	項目	単位	2017年度実績	対前年比 (%)
【大気】 	CO ₂ 排出量原単位 (対総生産量*2)	t/t	0.611	-2.1
	NO _x 排出量	t	11.56	+16.8
【水域】 	排水量	千t	1,743	-8.3
	COD発生量	t	2.6	+13.0
	BOD発生量	t	1.1	+37.5
【製品】 	生産量	t	15,415	+3.2
【産業廃棄物】 	産業廃棄物発生総量*3	t	17,747	+7.8
	最終埋立て量*3	t	15.5	+145.9
	ゼロエミッション比率*3	%	0.09	+125.0

*1 2016年度原材量使用量を20,763tから20,249tに訂正

*2 2017年度より原単位算出時の生産量を中間体含む総生産量に変更

*3 2016年度産業廃棄物発生総量を16,277tから16,459tに、埋め立て数量を21.9tから6.3tに訂正
(本レポートに記載した2013年度～2015年度のデータについても同様に訂正)

(2.1) 環境負荷のインプットの低減

1) 原材料使用量

三重工場では、資源の有効活用と製造コスト削減の両観点から、原材料のロスをなくす取り組みを行っていますが、原材料使用量は生産量に比例して増大します。

2017年度は複雑な中間体工程を経る高機能製品の生産量が増加、主たる原材料の使用量は21,136tとなり、2016年度に比べて4.4%増加しました。

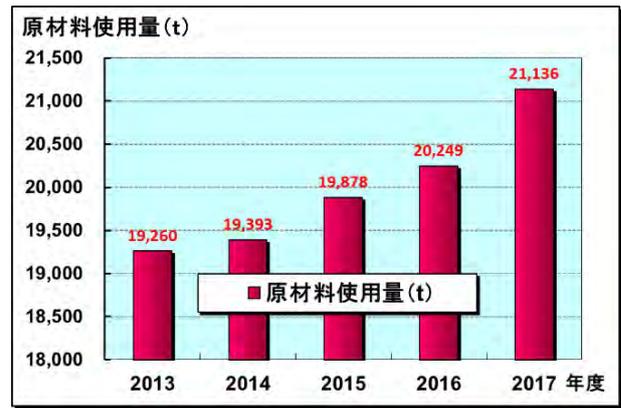


図-1 原材料使用量

2) エネルギー使用量

三重工場で使用するエネルギーは、都市ガスと、動力・照明に使用する電力とに分けられます。三重工場では、設備保全の向上、省エネ機器の導入、工程改善などを進め、エネルギー効率を高める努力を進めています。2017年度については、不良スチームトラップの交換による損失蒸気量低減の効果等があり、中間体を含む総生産量に対するエネルギー原単位は0.314kℓ/tとなり、2016年度に比べて1.9%の削減となりました。

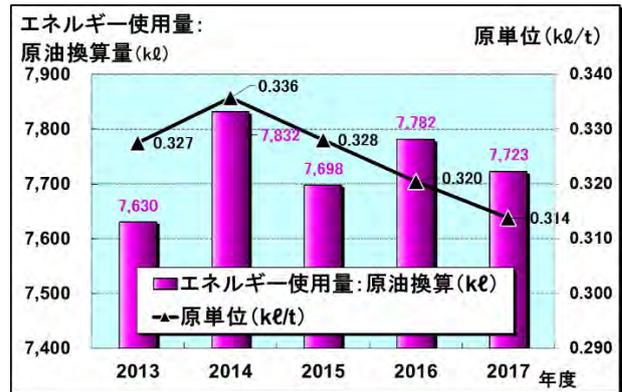


図-2 エネルギー使用量と原単位

3) 地下水汲み上げ量

三重工場では、飲料水を含め、構内で使用する水は、主に地下水の汲み上げにより賄っています。工場構内に掘られた井戸から汲み上げられた地下水は、各工程で使用された後、工場から排出されています。地下水を有効に利用するため、冷却塔を活用し再利用を図っています。

2017年度の地下水汲み上げ量は、引き続き水を多く使用する中間体の生産増加に伴い、2016年度に比べ2.5%増加しました。

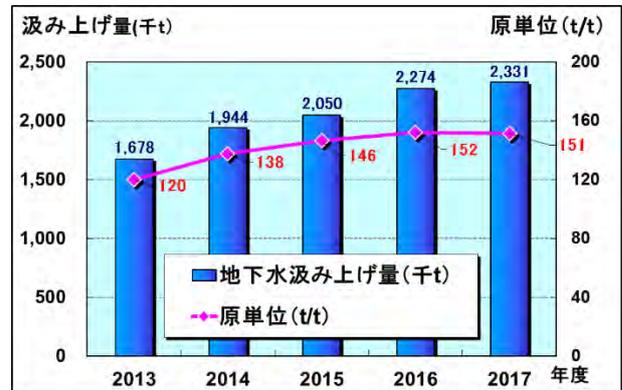


図-3 地下水汲み上げ量と原単位

(2.2) 環境負荷のアウトプットの低減

1) 大気への排出量

1.1) CO₂ 排出量

三重工場のCO₂排出量は購入電力を含んだエネルギーの使用量に関係しており、電力と蒸気に注力した省エネ活動を実施しています。2017年度は2016年度に比べ、エネルギー起源のCO₂排出量は0.7%の削減、中間体を含む総生産量に対する排出量原単位では2.1%の削減となり、「排出量原単位で1%以上削減」の目標を達成しました。CO₂排出量はエネルギー使用量に比例するので、CO₂排出量の削減は、省エネ活動によるエネルギー使用量の削減に起因しています。



図-4 CO₂ 排出量と原単位

1.2) NO_x 排出量

三重工場ではプロセスの熱源として蒸気が必要とするため、ボイラーを設置しています。

全ての対象設備・機器の排出濃度の実測値は規制値の 150ppm を十分に下回っています。

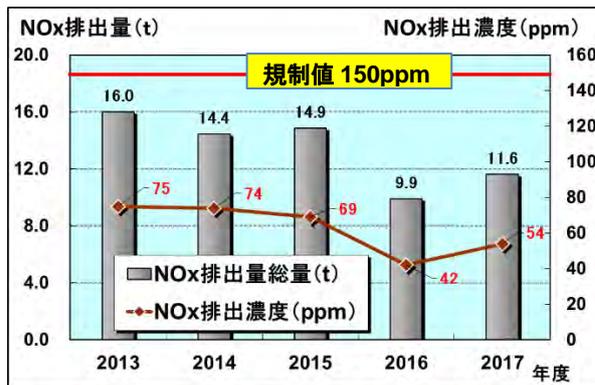


図-5 NO_x 排出量と濃度

2) 有害化学物質の排出・移動

三重工場では原材料として、多くの化学物質を使用しています。PRTR 法の対象となる第一種指定化学物質の内、年間取扱量が 1t を越える品目は 30 物質でした。これらの物質は PRTR 法に則り、使用量、排出量及び移動量を管理しています。2017 年度の取扱量は品種構成の変化に伴い、2016 年度に対して 6.5%増加しました。引き続き使用量削減の為に工程改善に取り組みます。



図-6 PRTR 対象物質 取扱・移動・排出量

3) 水域への排出量と推移

三重工場の製造工程からは 1 日に約 300t の廃水が発生します。廃水は活性汚泥処理を行った後、全量を公共下水に流しています。工場廃水については工程改善や設備改善を進め、環境負荷の低減に努めています。

4) 産業廃棄物

4.1) 産業廃棄物発生量

生産工程からは各種の産業廃棄物が発生します。2017 年度の産業廃棄物発生量は 17,747t で、2016 年度に比べ 7.8%の増加となり、原単位についても 0.721t/t で 2016 年度に比べ 6.3%の増加となりました。工程改善による廃棄物発生量の削減を図るとともに、産業廃棄物の内、利用できるものは再利用、古紙や使用済みドラムなどの有価売却など、資源の有効利用に努めていきます。



図-7 産業廃棄物発生量と原単位

4.2) 産業廃棄物の有効利用

三重工場では、産業廃棄物中間処理施設（廃油焼却炉）の廃熱で蒸気を発生させています。表-4 は各工程で発生した産業廃棄物を焼却した熱を利用して発生した蒸気量を示します。2017 年度の廃熱蒸気利用率（熱回収率）は廃熱ボイラーの安定運転の目安である 20.0%に僅かに未達でしたが、これは修理のために、廃油焼却炉の稼働日が少なくなったことによるものです。

表-4 廃油焼却炉の廃熱蒸気発生量と廃熱蒸気利用率

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度
廃熱蒸気発生量 (t)	11,905	13,317	12,932	13,275	12,634
蒸気総使用量 (t)	63,584	66,124	64,671	65,248	63,342
廃熱蒸気利用率 (%)	18.7	20.1	20.0	20.3	19.9

4.3) ゼロエミッション比率*

産業廃棄物を適切に処理する事で「完全ゼロエミッション」(当社定義)を達成しました。

昨年度よりゼロエミッション比率が増加した原因は、直接埋立てせざるを得ない廃棄物が増加した為です。完全ゼロエミッションを継続する為に、引き続き廃棄物の削減に取り組みます。

*ゼロエミッション比率とは、産業廃棄物発生総量に対する最終埋立て量の比率を言います。当社では0.1%未満を「完全ゼロエミッション」と定義しています。

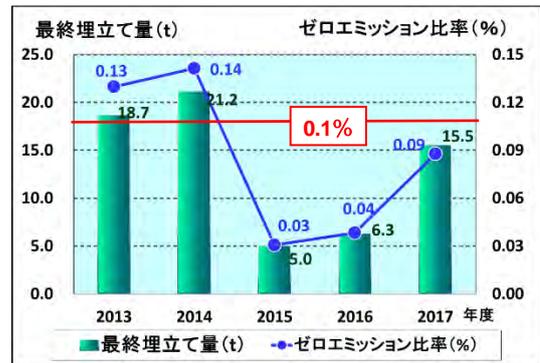


図-8 最終埋立量とゼロエミッション比率

(3) 環境会計

環境関係の環境設備投資額は2016年度に比べ59.9%増加しました。維持管理費用は、前年度に比べて廃油焼却施設の修理工費や緑化・除草の人件費の増大により10.7%の増加となりました。一方、環境保全対策に伴う経済効果は、可燃性廃油・鉄屑の売却代金の増加や、廃アルカリの削減による廃棄物処理費の削減効果により19.1%増加しました。

表-5 環境会計

単位 千円

	2016 年度	2017 年度	増減(%)
総設備投資額	3,850,430	3,545,000	-7.9
環境設備投資額	158,335	253,218	+59.9
維持管理費用	181,382	200,711	+10.7
環境保全対策に伴う経済効果	132,223	157,515	+19.1

(4) グリーン調達 (事務用品)

三重工場で使用する事務用品については、その内容(品目)を精査し、積極的にエコ商品を採用することにより、グリーン調達比率を高める取り組みを行っています。2017年度のグリーン調達比率は、2016年度に比べて8.9ポイント低下しましたが、引き続き目標の80%を過達しています。

表-6 グリーン調達比率

	2016 年度	2017 年度
① 事務用品購入点数	1,122	1,016
② エコ商品購入数	1,091	897
③ 調達比率 (%)	97.2	88.3

6. 安全衛生活動

(1) 労働安全衛生目標

2017年度は、次の目標を掲げ活動してきました。

表-7 2017年度 安全衛生目標

目標	結果	評価*
1. 労働災害・事故の発生ゼロ	1. 労働災害・事故の発生ゼロ	
① 労働災害 0 件	① 休業災害 0 件・不休災害 1 件 微傷災害 0 件・通勤途上災害 0 件	×
② 事故の発生 0 件	② 事故の発生 0 件	○
③ 危険予知活動の数値目標達成	③ 危険予知活動の数値目標	
i 安全ヒヤリハット報告 400 件/年	i 安全ヒヤリハット報告 685 件	○
ii 危険予知活動 500 件/年	ii 危険予知活動 1,069 件	○
iii 安全改善提案 720 件/年	iii 安全改善提案 1,093 件	○
2. 従業員の健康管理	2. 従業員の健康管理	
① 各種健康診断受診率 100%	① 受診率 100%	○
② 有所見者の完全フォロー	② 有所見者 フォロー率 100%	○

*評価 ○：目標達成 ×：目標未達

(2) 安全衛生活動の取り組み

1) 2017年度の安全成績

2017年度は災害ゼロの目標に対し、不休災害が1件（従業員 右手中指の切傷）発生しましたが、それ以降、完全無災害を1年以上継続しています。決めたことを守るという意識づけが、徐々に定着してきた成果と考えます。今後も安全活動に取り組んでいきます。

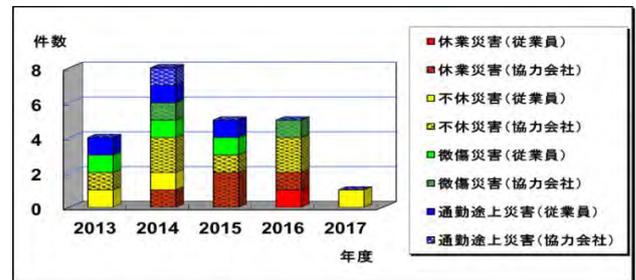


図-9 災害件数の推移

2) 安全活動

2.1) RC 委員会活動

① ヒヤリハット活動

安全活動の基本であり、事故・災害の未然防止に有効であることから、継続して実施しています。

② 安全キャンペーン

各課の持回りでテーマを選定し、その時期に合わせたテーマを取り上げています。災害発生防止に繋がる活動を展開したことで、安全意識の向上に繋げることができました。



各課の安全キャンペーン

③設備安全点検

10月には静電気防止設備（アースリール）を、12月には冬場の凍結やライン固化によるトラブルの事前対策として、蒸気配管や温水配管、トラップ等の漏れについて、安全点検を実施しました。



アースリールの点検



蒸気配管・トラップ等の点検

④設備・保護具等の変更検討

a. 【回転機カバーの安全対策】

2016年度、当社他工場で巻き込まれ災害が発生したことを受けて、回転機カバーの安全対策を実施しました。攪拌機：65基、カップリングカバー：67カ所、ベルトカバー：90カ所



回転機器カバーの安全対策

b. 【面体付きヘルメットの導入】

顔面への被液防止対策として、2017年7月より面体付きヘルメットを導入しました。

その際、入社3年目までの初心者については、センターラインを入れて識別し、全員でサポートできるように工夫しました。



面体付きヘルメット

2.2) 教育部会活動

- ① 化学物質漏洩対処訓練
 - ② 4班3交替勤務職場の夜間・休日の連携訓練
- ### 2.3) 2016年度からの取組み強化事項

- ① 構内横断歩行時の指差呼称
- ② 階段昇降時の手摺りの使用
- ③ 基本動作の徹底
- ④ 基礎化学教育の充実
- ⑤ 回覧教育から対面教育への移行



7月11日 化学物質漏洩対処訓練

3) 衛生活動

健康診断を100%実施すると共に、有所見者に対しては100%フォロー（二次検診の受診）しました。

表-8 健診結果

	2017年上期		2017年下期	
	受診率(%)	有所見率(%)	受診率(%)	有所見率(%)
一般健康診断	100	46.2	100	45.0
特殊検診《溶剤》	100	2.9	100	4.5
特殊検診《特化則》	100	0	100	0
歯牙検診	100	0	100	0

(3) 保安活動

【緊急事態への対応】

三重工場では、緊急時の対処法について基準・標準などで手順を規定しています。火災やガス洩れなどの緊急事態に対しては、初期段階で検知し警報を発するシステムを備えています。さらに、発生部署での初期緊急対処の体制と、工場全体での自衛消防隊が出動する体制を敷いています。

初期緊急対処と自衛消防隊の要員は、消防操法・救急救命など、訓練され経験のある従業員で構成されています。2017年度は、6月2日に火災発生を想定した総合防災訓練（緊急時対処訓練、避難訓練、初期消火訓練）を桑名市消防本部・東員消防署と合同で実施しました。また、9月14日は緊急時の避難訓練を、11月22日はタンクローリーからの漏洩を想定した対処訓練を実施し、2018年3月13日には桑名市消防本部の審査の下、消火栓操法のコンクールを実施し、自衛消防力の向上に努めています。



6月2日 総合防災訓練



9月14日 防災訓練（避難訓練）



11月22日 ローリー漏洩対処訓練



2018年3月13日 消火栓操法コンクール



7. 社会貢献活動

(1) 地域とのコミュニケーション

1) 東員町行事への参加

CSR活動の一環として、2017年度は、9月24日に東員町わくわくフェスタ、10月15日は東員町商工祭に参加し、地域とのコミュニケーションを図っています。



9月24日 東員町わくわくフェスタ



10月15日 東員町商工祭



2) 東員町小学生・中学生勤労体験学習

三重工場は、未来を担う「子供たち・若者たち」の勤労観・職業観の育成に貢献しています。2017年度は地元の小中学校4校の要請により、2017年5月、11月、2018年2月（2校）に勤労体験学習を実施しました。



2017年5月



2017年11月



2018年2月

3) 障がい者雇用施設のパン販売

工場内で月に一度、障がい者の雇用施設で製造しているパンの販売に協力しています。



食堂前でのパン販売

4) 地域ボランティア

三重工場は、毎週月曜日の朝に地元団地内の交差点二カ所で、小中学校の児童・生徒に対して交通指導を実施しています。



城山交差点 交通指導

(2) 清掃活動

工場周辺の一斉清掃を2017年6月20日、2017年12月13日に実施しました。



2017年6月20日



2017年12月13日

この環境・安全レポートに関するご質問、ご意見は下記の窓口へお願いします。

作成	株式会社 ADEKA	三重工場	安全・環境管理委員会事務局	
確認	株式会社 ADEKA	三重工場	安全・環境管理責任者	出口滋樹
窓口	株式会社 ADEKA	三重工場	業務部 業務課長	伊藤博也
住所	〒511-0251	三重県員弁郡東員町山田 3707-1		
TEL	0594-76-2330(代)	FAX	0594-76-3011	

ご意見をお聞かせください

私たちは地球環境の保全と労働安全衛生に積極的に取り組んでおります。

今回、環境・安全レポート 2018 を発行いたしました。未だ不十分な面が多々あるかと思っております。皆様より頂いたご意見、ご感想を参考とさせていただき、より良い活動を進めたいと考えています。皆様の忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

株式会社 **ADEKA** 三重工場
安全・環境管理委員会事務局
FAX 0594-76-3011

1. この環境・安全レポートの記載項目はいかがですか。
a. 物足りない b. 普通 c. 充実している d. その他()
2. この環境・安全レポートの記載内容はいかがですか。
a. 理解できない b. 普通 c. よく理解できた d. その他()
3. ご意見、ご感想をお願いします。

※ お名前、ご住所などは個人情報となりますので、記入は任意です。ご記入いただいた個人情報は本アンケートの調査・分析や今後の CSR 活動の参考にさせていただく目的に限り利用させていただきます。また、個人情報は適切に管理し、第三者への開示は行いません。

ご勤務先 _____ お名前 _____

連絡先ご住所 _____

電話番号 _____ FAX 番号 _____